

平成26年全国消費実態調査 主要耐久消費財に関する結果（鳥取県）

平成26年9月から11月にかけて実施された「平成26年全国消費実態調査」について、平成26年10月末日現在の世帯の主要耐久消費財の保有状況について調査した結果を公表します。

結果の概況

主要耐久消費財の所有状況

(1) 概況

所有数量の増減率で最も高いのはIHクッキングヒーター、最も低いのは携帯電話
普及率が最も高いのは、冷蔵庫
所有数量が最も多いのは、たんす

鳥取県の二人以上の世帯における主要耐久消費財の1000世帯当たりの所有数量（以下「所有数量」という。）について、平成21年調査と比較可能な品目の増減率をみると、IHクッキングヒーター（+32.0%）が最も高く、次いでサイドボード・リビングボード（+24.9%）、空気清浄器（+16.9%）になっている。

一方、携帯電話（-36.7%）が最も低く、次いで太陽熱温水器（-35.0%）、オートバイ・スクーター（-26.9%）となっている。

普及率をみると、冷蔵庫（98.6%）が最も高く、次いでテレビ（98.4%）、洗濯機（98.3%）となっている。

所有数量は、たんす（3,600台）が最も多く、次いでルームエアコン（2,967台）、テレビ（2,568台）となっている。

表1 主要耐久消費財の1000世帯当たりの所有数量増減率、普及率及び所有数量（上位5品目）
（二人以上の世帯）

	品目	所有数量(台)		増減率 (%)	普及率 (%)
		平成21年	平成26年		
所有数量の増減率が高い耐久消費財	IHクッキングヒーター※1	278	367	32.0	36.9
	サイドボード・リビングボード	510	637	24.9	43.1
	空気清浄器	344	402	16.9	31.2
	自動炊飯器	901	1,004	11.4	87.6
	ベッド・ソファベッド	1,258	1,390	10.5	69.9
所有数量の増減率が低い耐久消費財	携帯電話※2	2,126	1,345	-36.7	76.9
	(参考)スマートフォン	-	944	-	54.1
	太陽熱温水器※1	143	93	-35.0	9.3
	オートバイ・スクーター	108	79	-26.9	7.2
	洗髪洗面化粧台※1	839	628	-25.1	62.3
普及率が高い耐久消費財	食器戸棚	1,724	1,384	-19.7	86.0
	冷蔵庫	1,419	1,376	-3.0	98.6
	テレビ※3	2,623	2,568	-2.1	98.4
	洗濯機	1,160	1,124	-3.1	98.3
	電気掃除機	1,525	1,595	4.6	97.4
所有数量が多い耐久消費財	電子レンジ	1,047	1,062	1.4	97.1
	たんす※4	5,568	3,600	-	89.8
	ルームエアコン	2,718	2,967	9.2	91.5
	テレビ※3	2,623	2,568	-2.1	98.4
	自動車	1,907	1,954	2.5	95.4
	電気掃除機	1,525	1,595	4.6	97.4

※1 所有数量は、平成26年調査では持ち家で平成元年以降に取得したものに限定して調査を行っている。

※2～4 平成26年調査と平成21年調査では調査品目の内容に違いがある。

2 [平成26年]携帯電話（PHSを含み、スマートフォンを除く）←[平成21年]携帯電話（PHSを含む）

3 [平成26年]テレビ←[平成21年]薄型テレビ（プラズマ、液晶、有機ELを含む）
カラーテレビ（ブラウン管）

4 [平成26年]たんす←[平成21年]和たんす、洋服たんす、整理たんす

この「結果の概況」では、本文及び図表中における品目名の表記に当たって、表2を除き、原則として補足や注記のための（カッコ書き）を省略している。

【例】たんす（作り付けを除く） → たんす

図1 主要耐久消費財の1000世帯当たり所有数量及び普及率（二人以上の世帯）

所有数量(台・床暖房は畳)

普及率(%)

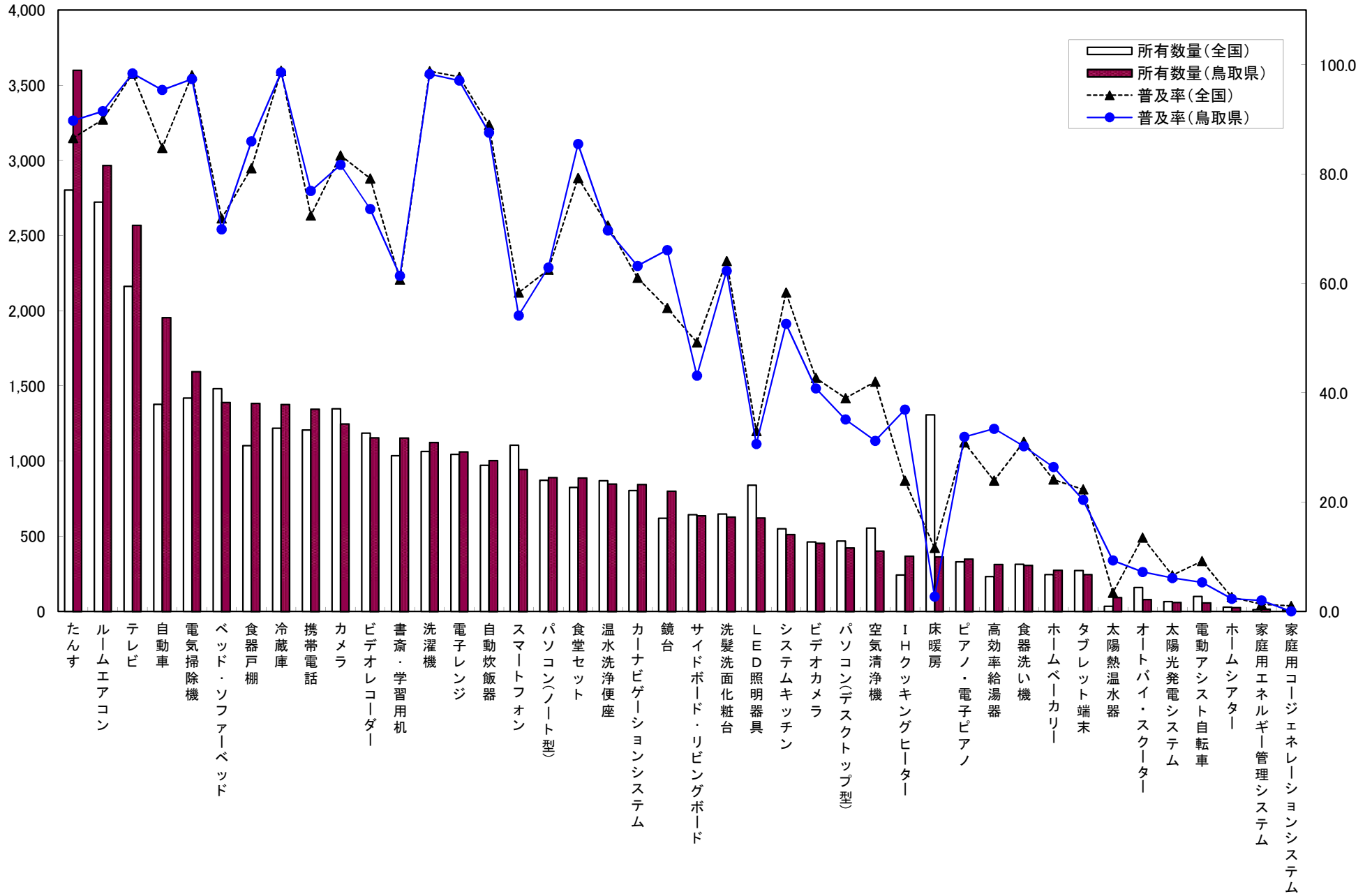


表2 主要耐久消費財品目別全国順位（鳥取県）
 （二人以上の世帯 1000世帯当たり所有数量による）

順位	品目数	品 目 名
1位		該当なし
2位		該当なし
3位	1	食器戸棚(作り付けを除く)
4位	2	たんす(作り付けを除く)、携帯電話(PHSを含み、スマートフォンを除く)
5位	2	電気掃除機、テレビ
6位	2	自動車、書斎・学習用机(ライティングデスクを含む)
7位	1	太陽熱温水器(※)
8位	3	高効率給湯器(※)、冷蔵庫、鏡台(ドレッサー)
9位	1	ホームベーカリー
10位	2	IHクッキングヒーター(※)、食堂セット(食卓と椅子のセット)
11位		該当なし
12位		該当なし
13位	1	洗濯機
14位	1	パソコン(ノート型(モバイル・ネットブックを含む))
15位		該当なし
16位	1	家庭用エネルギー管理システム(※)
17位	2	電子レンジ(電子オーブンレンジを含む)、ピアノ・電子ピアノ
18位		該当なし
19位		該当なし
20位	1	タブレット端末
21位	1	電動アシスト自転車
22位	2	自動炊飯器(遠赤釜・IH型)、ルームエアコン
23位		該当なし
24位	3	食器洗い機、カーナビゲーションシステム、ビデオカメラ
25位	2	サイドボード・リビングボード、ホームシアター(プロジェクター、スクリーン、スピーカーのセット)
26位	1	温水洗浄便座(※)
27位		該当なし
28位	2	ビデオレコーダー(DVD・ブルーレイを含む)、パソコン(デスクトップ型)
29位	1	カメラ
30位		該当なし
31位	1	システムキッチン(※)
32位	1	洗髪洗面化粧台(※)
33位	1	太陽光発電システム(※)
34位 ～ 36位		該当なし
37位	2	床暖房(※)、ベッド・ソファベッド(作り付けを除く)
38位		該当なし
39位	1	スマートフォン
40位		該当なし
41位		該当なし
42位	1	空気清浄機
43位		該当なし
44位	1	家庭用コージェネレーションシステム(※)
45位	2	LED照明器具(電球、蛍光灯を除く)、オートバイ・スクーター
46位		該当なし
47位		該当なし

※ 持家の世帯のみを集計

(2) 所有数量の増減数が大きい主要耐久消費財

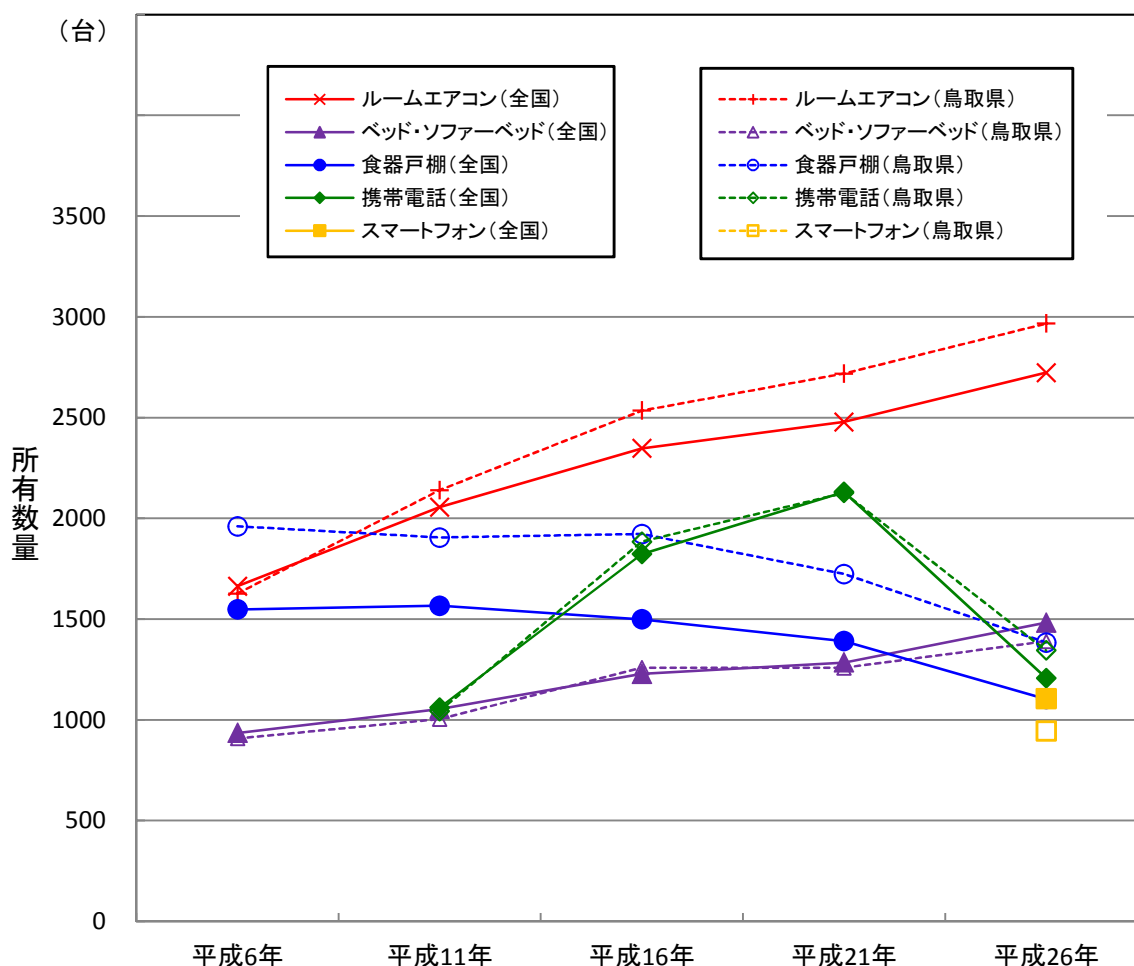
ルームエアコン、ベッド・ソファベッドの所有数量が増加
携帯電話、食器戸棚の所有数量が減少

鳥取県の二人以上の世帯について、平成21年調査と比較可能な品目の所有数量の増減数をみると、ルームエアコンが最も増加しており、平成26年は2,967台（普及率91.5%）と前回調査の平成21年に比べ249台（増減率+9.2%）の増加、次いでベッド・ソファベッドが1,390台（普及率69.6%）と前回調査に比べ132台（増減率+10.5%）の増加となっている。

一方、携帯電話（※）が最も減少し、1,345台（普及率76.9%）と前回調査に比べ781台（増減率-36.7%）の減少、次いで食器戸棚が1,384台（普及率86.0%）と前回調査に比べ340台（増減率-19.7%）の減少となっている。

なお、新たに調査したスマートフォンの所有数量は944台（普及率54.1%）となっている。

図2 ルームエアコン、ベッド・ソファベッド、携帯電話、スマートフォン及び食器戸棚の1000世帯当たり所有数量の推移（二人以上の世帯）



※ 携帯電話は平成11年から調査が開始され、平成26年調査と平成21年以前調査では調査品目の内容に違いがある。

[平成26年]携帯電話（PHSを含み、スマートフォンを除く） ← [平成21年以前]携帯電話（PHSを含む）

(3) 自動車

自動車の所有数量は増加
増加率が高いのはハイブリッド車で、普及率は10.7%

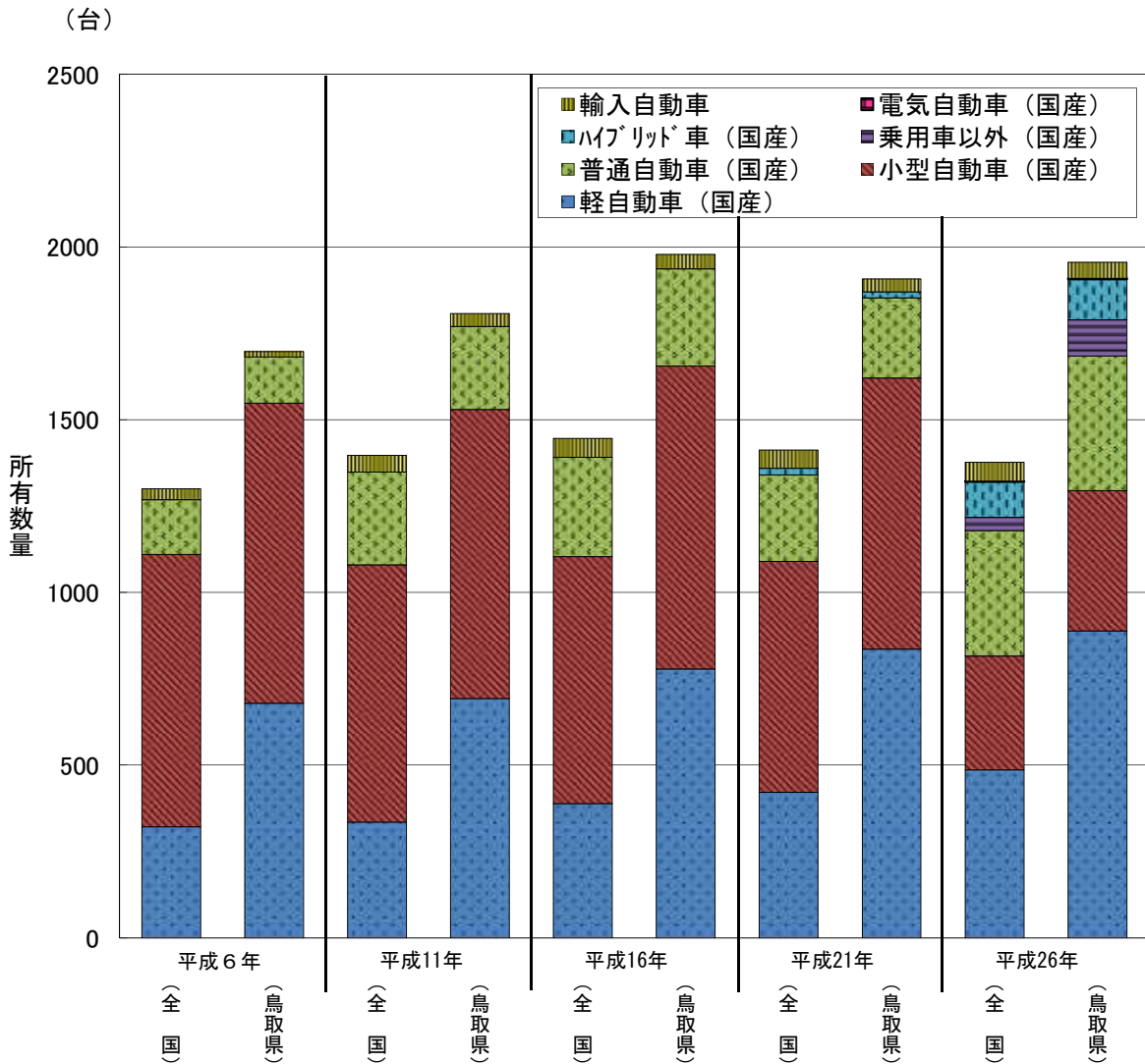
鳥取県の二人以上の世帯について、自動車の所有数量をみると1,954台（普及率95.4%）となっている。この内訳をみると、国産自動車が1,908台、輸入自動車が46台となっている。

国産自動車を種類別にみると、軽自動車が889台、小型自動車が406台、普通自動車が390台、乗用車以外が105台、ハイブリッド車が117台、電気自動車が3台となっている。

平成21年の前回調査（所有数量1,907台、普及率94.6%）と比べると、所有数量は2.5%上昇している。内訳をみると、国産自動車のうち軽自動車（増減率+6.3%）、ハイブリッド車（同+550%）、輸入自動車（同+24.3%）は増加し、小型自動車及び普通自動車（合算値）（同-21.7%）は減少している。

また、ハイブリッド車の普及率は10.7%で、平成21年調査の1.8%と比べると8.9ポイント上昇している。

図3 自動車の1000世帯あたり保有数量の推移（二人以上の世帯）



※1 平成21年のハイブリッド車（国産）は、ハイブリッド車（国産）及び電気自動車（国産）の合計値。

※2 軽自動車は、平成6年から21年が「660cc以下の自動車」、平成26年が「ナンバープレートが黄色の自動車」。小型自動車は、平成6年から21年が「661～2000ccの自動車」、平成26年が「ナンバープレートが白色で、分類番号の左から一桁目が5又は7の自動車」。

(4) ルームエアコン及び自動車の複数所有

ルームエアコンを3台以上所有する世帯が増加
自動車を2台所有する世帯が増加

鳥取県の二人以上の世帯について、ルームエアコン（普及率91.5%）の所有数量別世帯割合をみると、1台所有世帯が14.2%、2台所有世帯が19.6%で、前回調査の平成21年に比べ、それぞれ6.6ポイント、1.6ポイント低下したのに対し、3台所有世帯は21.5%、4台以上所有世帯は36.2%と、それぞれ3.6%、5.2%上昇している。

また、同様に自動車（同95.4%）では、1台所有世帯が25.0%、3台以上所有世帯が24.8%で、それぞれ8.1ポイント、0.5ポイント低下したのに対し、2台所有世帯は45.6%と9.4ポイント上昇している。

図4 ルームエアコンの所有数量別世帯割合(二人以上の世帯)

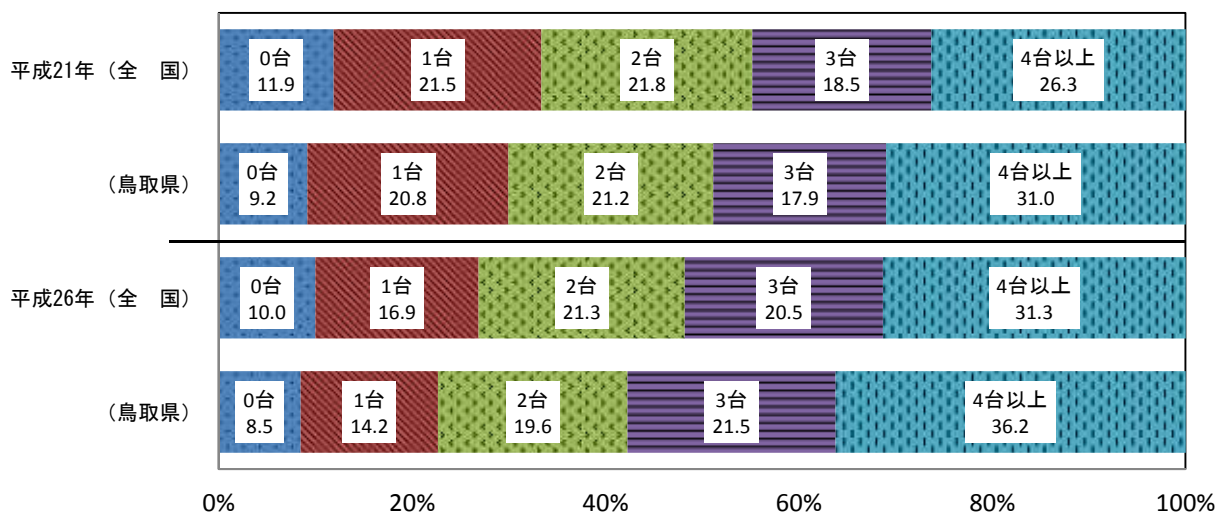


図5 自動車の所有数量別世帯割合(二人以上の世帯)

